

令和2年度 第1回学校運営協議会

日 時：令和2年7月28日（火） 15：00～17：00

場 所：大阪府立中央聴覚支援学校 新館1階会議室

- 1 開会
- 2 学校長挨拶
- 3 学校運営協議会委員ならびに事務局・教職員の紹介
- 4 学校の様子について

幼小中高各学部及び寄宿舎の様子について報告

- 5 議事

令和2年度 学校経営計画について 赤木校長より説明

<委員からの意見・質問>

- ・校内では安全教育を進めているとのことだが、地域とのつながりについてはどうか。宮城・熊本・岡山などの災害時に命が助かった人は地域の中でつながっていたときいている。地域の手話サークルとのつながりや日頃のあいさつなどの大切さを家庭とも協力して教える必要がある。
- ・本校には自立活動プログラムがある。全国的にもキャリア教育と自立活動二つのプログラムがある学校はほとんどなく、本校の誇りといえる。それらの実践に期待する。先生方の手話研修についても、本校では教職員の勤務時間内に学部を越えて行っており、各部の時間割が違う中でも工夫している。
- ・キャリア教育というのは人間関係をつくる力である。自分のきこえにくさをわかりやすく発信する力が大切だと思う。さらに、社会に出ると、きこえ以外の障がいをもつ人とかわることもある。聴覚障がいの子どもも自分の障がいだけでなく、もっと生活の中でいろんな人とまじわり、立場の弱い人への理解をしてほしい。大人になってから研修するよりも、実際に学校生活の中などで体験させておいてほしい。
- ・3月からの長い休校期間を経て、いろいろな制約のなかで、ようやくPTA活動も始まった。これまでになく学校とのやりとりが増えたという点では、大変だったが、プラス面ととらえたい。そして、安全対策などで良

かったことは今後も続けていってほしい。

- ・子どもたちが社会に出た時に困る状況をどのように地域の学校に伝えるかを考えないといけない。大阪市の学校を巡回する仕事をしていると、難聴があっても「この生徒はきこえます、しゃべれます」といわれることがある。「きこえている」「しゃべっている」ようであっても、周りの雑音でききとりにくい子もいる。周りに合わせているだけで、分からないまま過ごしている子もいる。「わかること」「わからないこと」を説明するのはとても困難で、自分から周りに配慮を求める力を身につけてほしいと思う。
- ・検定試験について、いろいろな資格があるにこしたことはないが、企業からは実践的な力を求められる。資格をとること自体を目標にするのではなく、相手に求められたことに応えられる力、状況を把握する力も中学部、高等部で育ててほしいと思っている。

6 事務局より連絡

- ・授業アンケートについて
- ・学校教育自己診断について
- ・今後の予定および学校行事について

7 閉会